与論町立与論小学校

与論小だより

令和4年12月12日

学校教育目標 ： 校訓「至誠」を胸に、未来に挑む子供の育成

ブログはこちらから

ＦＩＦＡワールドカップ2022から思うこと

校長　　岩元　輝美

吹く風が冷たさを感じさせるようになりました。子どもたちはそんな中でも元気に歩いて登校し、校庭で鬼ごっこやなわとびなどをしています。朝から紅潮した顔や元気な笑顔に出会うとうれしくなってきます。

さて、４年に一度、サッカーの世界一を決めるワールドカップも大詰めを迎えていますが（皆様の手元に届く頃は優勝国が決まっているかも？）、今回の日本代表の戦いに一喜一憂した方も多かったのではないでしょうか。ドイツ、スペインという優勝経験のある強豪を破り、決勝トーナメントに進出し、敗れたとは言え前回準優勝のクロアチアとの大接戦を展開し、大きな感動を与えてくれました。さらに、今大会でもピッチ外で大きな話題となったのが、日本人選手及びサポーターの試合後の行動です。 世界的フォトエージェンシーGetty Imagesが「PKでクロアチアに敗れた後、折り鶴と感謝のメッセージが日本のロッカールームに飾られる」と配信した写真では、ゴミ一つなく、ハンガーからティッシュケースまで綺麗に整頓されています。中央の台の上に「ありがとう！」「SAMURAI BLUE JAPAN」などのメッセージとともに折り鶴も置かれています。クロアチア戦に限らず、今大会でも以前の大会でも、日本は試合後にこうして整理整頓したロッカーに置手紙を残し会場を後にすることが、客席のゴミ拾いをして去る日本人サポーターとともに話題になっていました。この行動を語るときに出てくるのが、メキシコオリンピックで日本のサッカーチームが銅メダルを獲得したときの代表監督で日本サッカー協会の元会長で小・中学生へのサッカーの普及に力を入れた長沼健さんの話です。テレビ番組で「サッカーが上手になるためには、２つのものが必要だ」と語られたそうです。「技術」「キック力」とか「練習」「チームワーク」「やる気」…そんなことを思い浮かべた方が多いでしょうか。でも長沼さんは、「あいさつ」と「整理整頓」と述べられたそうです。長沼さんのこの話の後、「あいさつや整理整頓ができなくても、サッカーが上手になる人はいるんじゃないですか？」と反論した人に対して、長沼さんは次のように答えたそうです。「いません。絶対にいません。何千人という選手を育ててきましたが、何万人という選手を見てきましたが、サッカーが上手になる人は、必ず自分から『あいさつ』ができ、『整理整頓』がきちんとできるのです。」と。

あいさつ→　「人」と上手につき合えること（相手を大切にする心）
整理整頓→　「物」と上手につき合えること（物を大切にする心、感謝の気持ち）

う～ん、なかなか、深い話です。そこで、ふと頭をよぎったのが、本校の素晴らしい校訓「至誠～真心をもって人に尽くす 真心をもって事にあたる～」です。改めて、「人間性を高めること」が肝要であると思うことでした。